

地域連携戦略室主催事業

- 令和元年度 タウンミーティング (第16回)

地域連携戦略室主催事業

- 令和元年度 徳島大学地域交流シンポジウム (第16回)

サテライトオフィスの取組事業

- 那賀町地域再生塾
- 上勝学舎
- 美波町地域づくりセンター
- にしあわ学舎
- 神山学舎

まちしごとファクトリー

ガレリア新蔵活動報告

2019

地域連携事業成果報告書

地域の持続を目指す上勝町景観まちづくりの挑戦!

開催主旨

■ 少子高齢化・人口減少に歯止めがかからない全国の活動モデルとして、上勝町の景観まちづくりの挑戦に着目するとともに、2019年8月に施行した棚田地域振興法に着目し、持続可能な美しいまちづくりを考える。

開催日：令和2年2月22日（土）

場所： 福原ふれあいセンター
（上勝町大字福原字平間45-2）

主催： 徳島大学人と地域共創センター

共催： 上勝町、上勝町教育委員会

協力： NPO法人郷の元気、NPO法人 commons

後援： 徳島県、徳島県技術士会、国土交通省四国地方整備局、中国四国地方環境事務所四国事務所、農林水産省中国四国農政局、林野庁四国森林管理局

内容

(1) 開会挨拶

(2) 第一部 基調講演

● 講演1 「重要文化的景観の現状と課題」

文化庁文化財第二課 主任文化財調査官 下間 久美子

● 講演2 「重要文化的景観・檜原の棚田の価値を考える」

徳島大学 名誉教授 平井 松午

● 講演3 「棚田地域振興法とその活用について」

農林水産省中国四国農政局 農村振興部長 松本 雅夫

(3) 第二部 パネルディスカッション

「持続を目指す上勝町景観まちづくり」

コーディネーター 徳島大学人と地域共創センター

助教 尾野 薫

● 話題提供1 「重要文化的景観・檜原の棚田と集落」

檜原の棚田村 代表 松下 和照

● 話題提供2 「上勝町の伝統的民家」

NPO法人 commons、徳島県景観アドバイザー 喜多 順三

● 話題提供3 「上勝町のSDGsを活かした活動」

NPO法人郷の元気、上勝町景観まちづくりアドバイザー

坂本 真理子

(4) 第三部 「景観と棚田地域をめぐる情報提供」

● 情報提供1 「景観まちづくりに関する支援制度について」

国土交通省四国地方整備局建設部 都市・住宅整備課長 荒金 恵太

● 情報提供2 「四国における地域循環共生圏の創造に向けて」

中国四国地方環境事務所四国事務所環境対策課 課長補佐 三浦 丞治

● 情報提供3 「森林土木工事における木材の循環利用と景観への配慮」

林野庁四国森林管理局計画保全部 治山課長 尾木 浩典

(5) 報告「これからの上勝町の計画と棚田地域」

上勝町長 花本 靖

(6) 閉会挨拶

タウンミーティングは、本学が徳島県内市町村の有する

課題を取り上げ、その解決に向けた地域と大学の相互対話による取組について協議するもので、地域貢献事業の一環として毎年県内各地で開催しており、今回で16回目となった。

令和2年2月22日に檜原の棚田（上勝町）は、重要文化的景観に選定され10周年を迎えた。この間、高齢化は一層進展し、地域や集落の持続の危機が拡大している。上勝町では、令和元年9月に美しい景観形成と地域課題を同時解決する景観まちづくりを目標に、上勝町景観計画（1次策定：公共部門編）を策定した。計画には、生業景観、環境共生型景観等の景観形成の方針や、木材利用を推進する景観まちづくり、SDGsの視点による推進が示されている。

そのような背景の中で、今回のタウンミーティングは、少子高齢化・人口減少に歯止めがかからない全国の活動モデルとして、上勝町の景観まちづくりの挑戦に着目するとともに、令和元年8月に施行した棚田地域振興法に着目し、持続可能な美しいまちづくりを考えることを目的に開催した。

行事には上勝町民、県内外の行政職員・研究者・コンサルタント等といった方々が参加し、各々の立場から文化的景観の保護や景観まちづくりの推進について考える貴重な機会となった。



タウンミーティングの様子



チラシ

徳島県の災害ケースマネジメントをどう進めていくか？

～県民の生活再建困難者ゼロを目指して～

開催主旨

■ 徳島県内での大規模災害発生時における県民の生活再建困難者ゼロを目指して、「災害ケースマネジメント」の制度化と課題について学び、先進事例から徳島での実践について考える。

開催日：令和2年2月15日（土）

場所： 徳島大学地域連携プラザ「地域連携大ホール」
（徳島市南常三島町1丁目1番地）

主催： 徳島大学人と地域共創センター、徳島大学環境防災研究センター

共催： 徳島県、徳島県社会福祉協議会、徳島弁護士会、徳島県土業ネットワーク推進協議会、公益社団法人徳島県建築士会、一般社団法人徳島県建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会四国支部 徳島地域会、徳島県技術士会

内容

(1) 開会挨拶

(2) 第一部 基調講演

● 演題「災害ケースマネジメントの制度化と課題」

京都経済短期大学 経営情報学科

講師／人と防災未来センター リサーチフェロー

菅野 拓氏

(3) 第二部 パネルディスカッション

● 演題「災害ケースマネジメントの先進事例から徳島での実践を考える」

コーディネーター 特定非営利活動法人さくらネット

代表理事 石井 布紀子氏

● 事例報告1 「2016年台風10号」

一般社団法人 岩泉よりそい・みらいネット 理事

阿部 知幸氏

● 事例報告2 「2016年鳥取県中部地震」

公益財団法人とっとり県民活動活性化センター

震災復興活動支援センター 主任企画員

白鳥 孝太氏

● 事例報告3 「2018年西日本豪雨」

社会福祉法人広島県社会福祉協議会 地域福祉課課長

広島県地域支え合いセンター センター長 吉野 篤史氏

クエスチョナー 徳島県危機管理部 次長 坂東 淳氏、

社会福祉法人徳島県社会福祉協議会 事務局次長

伊原 俊子氏、

徳島弁護士会災害対策委員会 副委員長 堀井 秀知氏

コメンテーター（前掲）菅野 拓氏

(4) 閉会挨拶

地域交流シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、16回となった。

今回のシンポジウムは、令和元年12月に徳島県が策定した「徳島県復興指針」の中に、「災害ケースマネジメント」の準備を進めることが明記されたことを受け、徳島県

での災害ケースマネジメントの進め方について、県民および関係機関と議論を深めることを目的に開催し、約120名が参加した。

第一部の基調講演では、演題「災害ケースマネジメントの制度化と課題」について、菅野氏よりお話いただいた。

続いて、第二部では、演題「災害ケースマネジメントの先進事例から徳島での実践を考える」について、石井氏コーディネートのもと、パネルディスカッションを行った。全国での災害ケースマネジメントの先進事例について、阿部氏から「2016年台風10号」、白鳥氏から「2016年鳥取県中部地震」、吉野氏から「2018年西日本豪雨」の報告をいただいた後、クエスチョナーの坂東氏、伊原氏、堀井氏および会場からの質問も含めながら、徳島県での災害ケースマネジメントの進め方について議論した。最後にコメンテーターの菅野氏より全体総括いただいた。

参加者アンケートによると、参加者の8割以上がシンポジウムの内容に「満足」していた。また、参加者の7割以上が今後災害ケースマネジメントに「取り組んでいこう」としており、徳島県の災害ケースマネジメントの推進について考える貴重な機会となった。



パネルディスカッションの様子



チラシ